
今日の日

2025年1月27日 ～ 2月2日

翻訳 岡元 裕子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

1月27日(月)

イエス様に付き従う

聖書朗読 マルコの福音書 1:12～20

いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る。

詩篇 91:1

“シャドウイング”（訳注：例えば、一人の看護師に影のように付いて、一定時間その看護師の行う看護と患者の反応など起こることを観察すること）は現代よく普及している考えです。その道の専門家と一緒にいて、その仕事ぶりを観ることは、実際の仕事はどういうものかを知るのに役立ちます。日常の活動を観察し、不明な点について質問することは、職業選択を決定する際の助けになります。

イエス様は宣教活動を始められた初期の頃に、シモン・アンデレ・ヤコブ・ヨハネに『わたしについて来なさい。』と言われました。彼らは、イエス様の宣教活動を1日どころか全生涯にわたってイエス様に付き従うこと（シャドウイング）になりました。イエス様と共に歩み、語り、食事を共にしました。イエス様が癒やされるのを見、イエス様の教えを聞き、イエス様が苦しまれるのを間近で見ました。彼らは職業選択のためにイエス様に付き従っていたのではありません。すべてを捨てて、弟子として生きることを選びました。彼らの選択は成功だったのでしょうか。

答えのヒントが使徒の働きにあります。使徒4章で、ペテロとヨハネは彼らの宣教と癒しに関して、民の指導者、長老、律法学者たちに尋問されています。ペテロは大胆に臆することなく、イエス様の他には救いはないと言います。指導者たちの結論はこうです。彼らはペテロとヨハネが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスと共にいたことが分かった。（使徒 4:13）

弟子たちが3年間、イエス様と行動を共にしたことは皆が知っていました。あなたが誰に付き従っているか周りの人たちは知っているのでしょうか。イエス様から離れないように、イエス様と共に過ごし、イエス様を“シャドウイング”しましょう。

讚美歌 365 わが主イエスよ

祈り お父様、今日、イエス様と離れないで生きられますように。私たちが誰にお従いしているか、誰の弟子かを周りの人たちが知ることができるよう、私たちのわざ全てにおいてイエス様を反映することができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ウェスト・バージニア州 ヴィエンナ / サリー・ジェーン・シャンク

1月28日(火)

泣く時、ほほえむ時

聖書朗読 マルコの福音書 2:18~22

天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。…泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。 伝道者の書 3:1、4

イエス様は、弟子たちが断食しないのはなぜかと訊かれた時、今はその時ではないからだと言われました。花婿であるイエス様が弟子たちと一緒にいる間は断食できないが、イエス様を取り去られる日には嘆き断食するであろうと。弟子たちと一緒にいる間に、イエス様は彼らに神様の新しい教えを伝えていました。律法主義という古い皮袋に入れることはできない新しい教えでした。この新しい教えを与えた後、イエス様はこの世を去り、弟子たちはイエス様を取り去られたことを嘆くこととなります。

ここに人生の大切な教訓があります。伝道者の書でソロモン王が語ったように、イエス様も、この世にあっては様々な想いのための様々な時があることを人々に教えられました。私たちが喜びだけの人生を望んだとしても、そうはならないでしょう。喜びの時もあれば悲しみの時もあり、成功もあれば失敗もあるでしょう。勝利を得る時もあれば、負ける時もあるでしょう。時にはがっかりして打ちのめされてしまうこともあるでしょう。それから、みんなと喜ぶ時がやってくるでしょう。この世には楽しいことと悲しいことが入り混じっています。

でも、私たちは悲しみのない所で生きることを望んでいます。天国には喜びしかありません。辛い時には、この希望を励ましにして、イエス様のために生きましょう。私たちの希望は、イエス様の変わらぬ愛と、イエス様が与えてくださる永遠のいのちについて、人々に力強く証しするものとなるでしょう。

讃美歌 54 よろこびの日よ

祈り 主よ。あなたの再臨を待ち望みます。あなたのみ恵みのうちに留まります。あなたの傷ついた御足の下で泣き、お従いします。イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド / スタッフォード・ノース

1月29日(水)

イエス様とのランチ

聖書朗読 マルコの福音書 2:18~28

食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むろん、食卓に着く人でしょう。しかしわたしは、あなたがたのうちにあつて給仕する者のようにしています。

ルカ 22:27

イエス様に従う者として、私たちは週の初めの日、日曜日に定期的集まります。なぜでしょうか。イエス様は『安息日は人間のために設けられたのです。』とおっしゃいました。ユダヤ人は、御言葉を読み、教えを聞き、ユダヤ人としての絆を強めるために、安息日に集まりました。しかし中には、会堂で他の人たちに見られるために、義務を果たすために、偉そうな現われ方をするために集まる人たちもいました。

私たちは『この道』(訳注:使徒9:2参照)に従う者として、なぜ日曜日に集まるのでしょうか。イエス様は、私たちのためだとおっしゃいました。私たちが集まるのには目的があります。イエス様を覚え、賛美と祈りによって神様をほめたたえるという目的です。

私たちが心から望んでイエス様にお従いしていると良いですね。私たちは満たされるために、私たちの人生を他の人々と分かち合うために、教会に行きます。私たちは交わりのために、愛する父なる神様からいただいた恵みを互いに覚えるために集まります。私たちのために食事が用意されています。救い主イエス様が給仕して下さいます。イエス様は、私たちの時とご馳走を共に備えて下さいます。私たちはただ、イエス様に飢えて、イエス様を求める心を持って行きさえすればよいのです。

讃美歌 II 186 日ごと主イエスに

祈り 主よ。私たちは、あなたが用意して下さった宴会に集まります。そこではあなたが給仕して下さいます。賛美をもって、あなたをほめたたえます。イエス様のお名前によって。アーメン。

オレゴン州 フィロマス / ウィリアムT・マッコーン

1月30日(木)

手を伸ばしなさい

聖書朗読 マルコの福音書 3:1~12

…その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。 マルコ3:5

手は、私たちの日常の働きにとって極めて重要なものであり、見事に設計されていて、それでいて簡単に有難みを忘れられてしまうものです。でも、このイエス様と遭遇した片手のなえた人にとっては、そうではありませんでした。彼の片手は、なえていて役に立たず、ただぶら下がっているだけで、生産性のある道具ではありませんでした。どんなに彼は、子どもを抱いたり、自分で食物を口に持っていったり、痒いところを搔いたり、文字を書いたり、愛情を表現するために優しく触れたりすることができる手が欲しかったでしょう。

私は自分の手に対して有難いとはめったに思いません。有難くない関節炎の痛みが両手を貫き走ったり、親指をハンマーで叩いてしまったり、凍えるような荒天の中で手探りで暖かい場所を探さなければならなくなったりして、初めて両手の有難みを思います。

イエス様は健康な両手があることの素晴らしさや創造力をご存じです。イエス様は、触れてはならないツアラアトに冒された人にさわり、身体と魂を癒されます。祈ってパンを裂かれます。今日の箇所ではイエス様は、なえた手を癒すことは『善を行うこと』だと言われます。たぶん、今しがた癒してもらった人は大いに賛同するでしょう。

手は多くの善をなすことができます。健康な両手は、私たちの生活や人々の生活を素晴らしいもので満たすことができます。今日、神様から与えられた手という贈り物を覚えていましょう。人々を助ける方法を探しましょう。それから、両手を組んで感謝と賛美の祈りを捧げましょう。

讚美歌 166 イエス君は いたるわし

祈り 神様、私たちの賛美の祈りをお聞きください。この手で感謝を捧げ、人々に喜んで仕えます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン / ヴァージル・フライ

1月31日(金)

悲しい帰郷

聖書朗読 マルコの福音書 6:1~6

彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私達も彼を尊ばなかった。 イザヤ53:3

故郷に帰るのは、たいていはおめでたい行事です。しかし、イエス様が郷里のナザレに帰られた時は楽しい機会ではありませんでした。イエス様は宣教活動の間ずっと拒絶に立ち向かわれましたが、家族・友人・隣人に拒絶されるのはとくに辛かったことでしょう。彼らには、大工の息子であり、近所で大きくなった男の子が、救い主キリストであるとは到底信じられなかったのです。彼らの不信仰に落胆して、イエス様は少数の病人に手を置いて癒すという奇跡を行っただけで、郷里を離れられました。イエス様にとって、生涯知っていた人たちの不信仰を目の当たりにするのはどんなに悲しかったことでしょう。

今日、イエス様が神の御子であることを信じない人たち、あるいは拒絶する人たちが大勢います。もしかして、あなたにも真理から顔を背けている子どもたちや愛する人たちがいるでしょう。彼らに、神様の素晴らしい恵みを今からのち永遠に受けてもらいたいのに、あなたは傷つき、がっかりしているかもしれません。

イエス様も同じようにながかりされました。でも、希望があります。私たちは、彼らの目が開かれて、イエス様を見ることができるようにと祈ることができます。神様の彼らに対する愛は、私たちの愛よりもはるかに大きいのです。

聖歌 608 イエスはわがいのち

祈り 神様、御子を送ってください、あなたの子どもとなり得る選択の機会を与えてくださって、ありがとうございます。イエス様について人々に教える時、ともにいてください。忠実であれますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



テキサス州 ヒューストン / ジェイン・ポー・マッシー

2月1日(土)

ちょうど必要なものをくださる

聖書朗読 マルコの福音書 6:30~44

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。ピリピ 4:19

五千人の給食は、どんな給食にも比べることのできないものでした。そして、その給食は、イエス様“おひとりで成し遂げられたものでした。大群衆はイエス様にずっとついて来て、お腹を空かしていました。イエス様は教えながら、彼らのお腹が鳴っているのが聞こえたのかもしれない。

問題は、弟子たちには十分な食べ物の持ち合わせがなかったこと、飲食店はみな閉まっていたこと、へんぴな所で家までは遠かったことなどです。彼らが見つけたのはせいぜい子どものお弁当の『五つのパンと二匹の魚』だけでした。でも、しばらくすると、ぐうぐう言っていたお腹は“もう一口も食べられない”ほど満腹になりました。最後に、パン切れを十二のかごにいっぱい取り集め、魚の残りも取り集めました。すべて、小さな袋に入ったお弁当から始まったのです。実にイエス様らしいと思いませんか。独創的で、力強い一方で、繊細で、理解があり、気前が良いやり方です。

問題の答えは、イエス様にとっては少しで十分だということです。だって、イエス様が多くを成し遂げるのに、多くを必要とされたことが未だかつてありましたか。地面にちょっとつばきをして、泥をちょっと作って、ほら、盲人の目が見えるようになりました。ある所ではみことばをもって、ある所では触れられて、癒されました。その日、弟子たちが群衆の中で見つけた少しのものは、イエス様にとっては十分過ぎるものでした。

御使いがマリヤにした宣言は未だに真実です。『神にとって不可能なことは一つもありません。』(ルカ 1:37)パウロが私たちに約束してくれたこともまた真実です。『私の神は…あなたがたの必要をすべて満たしてください。』(ピリピ 4:19)私の言うことが信じられないなら、イエス様が復活された後の空っぽの墓を見てください。手始めに、かごの中を覗いてみてはいかがですか。

讃美歌 317 ガリラヤのうみべ

祈り 父よ、あなたはどんなことでもおできになり、私の必要を満たそうとしておられるのを疑ってしまったことがあるのを赦してください。真実をもっと信じ、感謝できますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アマリロ / ベン・メレネス

2月2日(日)

いざというときには

聖書朗読 マルコの福音書 9:14~29

しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。 ルカ 5:16

日々の忙しさにかまけて、祈りのときをおろそかにしがちです。かと思うと、マルコ9章の父親のように、自分の必要以外は考えられず、唯一つのことを主に求めて、他の気掛かりはすべて消え失せてしまいます。

取り立てて心配事がない日の祈りに注目することは、私たちの魂が闇の瞬間に備えるのに役立ちます。闇の瞬間が起こると、太陽輝く青空の記憶をすべて人生から素早く追い払ってしまいます。祈りは、その時の状況にかかわらず、生活のリズムになっていなければなりません。

ダリヨス王の法令と、それに背いた者はだれでも獅子の穴に投げ込まれるという残忍な禁令に直面した時のダニエルのように、試練の激しさは、危機にあって初めて祈るよりも、首尾一貫して神様の御前に『いつものように』祈ると、和らげられます。(ダニエル 6:10)

現代の祈りは日々の糧や恵みに集中しがちかもしれませんが、絶えず祈る姿勢は、私たちがいかに素晴らしいものをも受け、将来もたらされるかもしれないいかなる重荷にも立ち向かうことができるように備えさせてくれます。

讃美歌 310 しずけいのりの

祈り 主よ、何が起ころうとも、あなたに忠実におゆだねしていただけるように、絶えず祈ることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 グリーンフィールド / ウィル・ノリド

